

## 『求職者支援訓練における訓練実施施設の状況』 —取り組みと課題—

労働政策研究・研修機構  
藤本 真

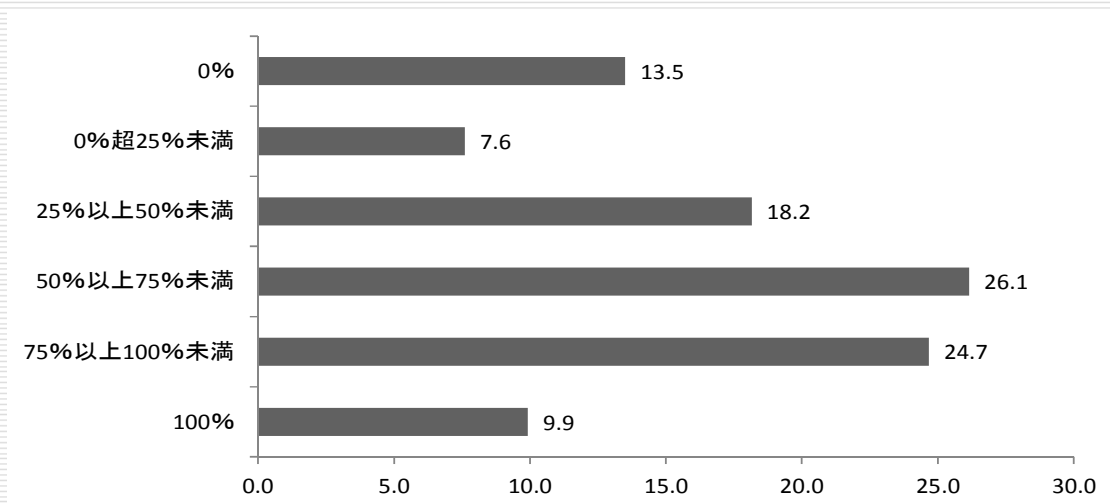
1

### 1. 施設・職員の状況

●施設を運営する組織は、「株式会社」が66.6%を占め、以下、有限会社、個人事業主などの「株式会社以外の事業主」(18.9%)、「専修学校・各種学校」(6.5%)と続く。

●施設の職員総数は、「5～9人」というところが32.9%、「10～19人」というところが25.1%、「1～4人」というところが19.1%であり、小規模施設が多数を占めている。また、これら職員の半数以上が正社員以外(=パート・アルバイト、嘱託・契約社員、他組織からの出向者、業務を委託している個人など)であるという施設が、約6割を占める(図表1)。

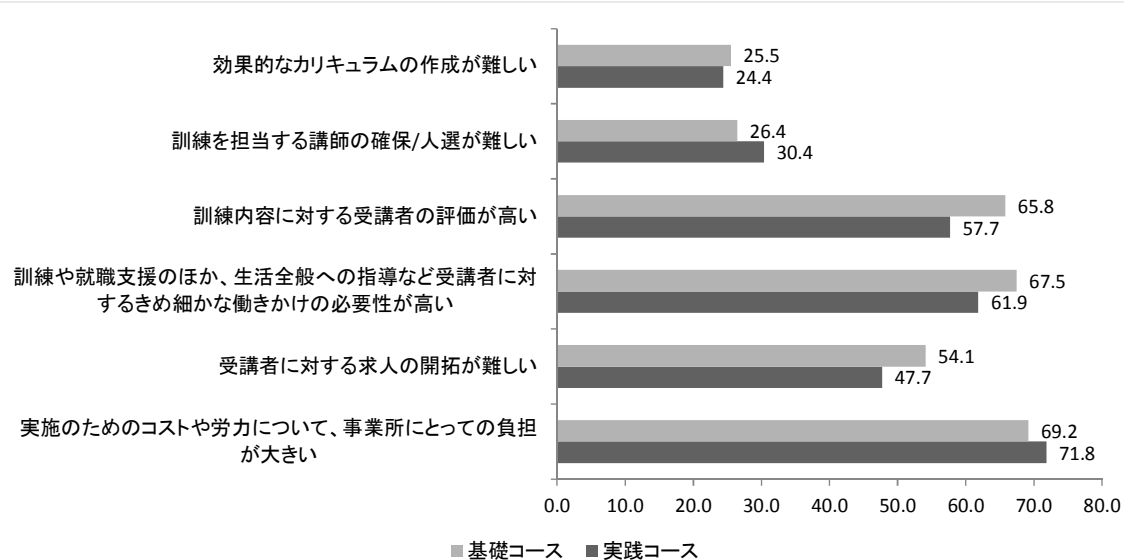
図表1 スタッフ総数にしめる正社員以外の割合



3

## 2.実施してきた訓練についての認識

図表2 実施してきた訓練についての施設の認識



4

### 3.就職支援の取り組み

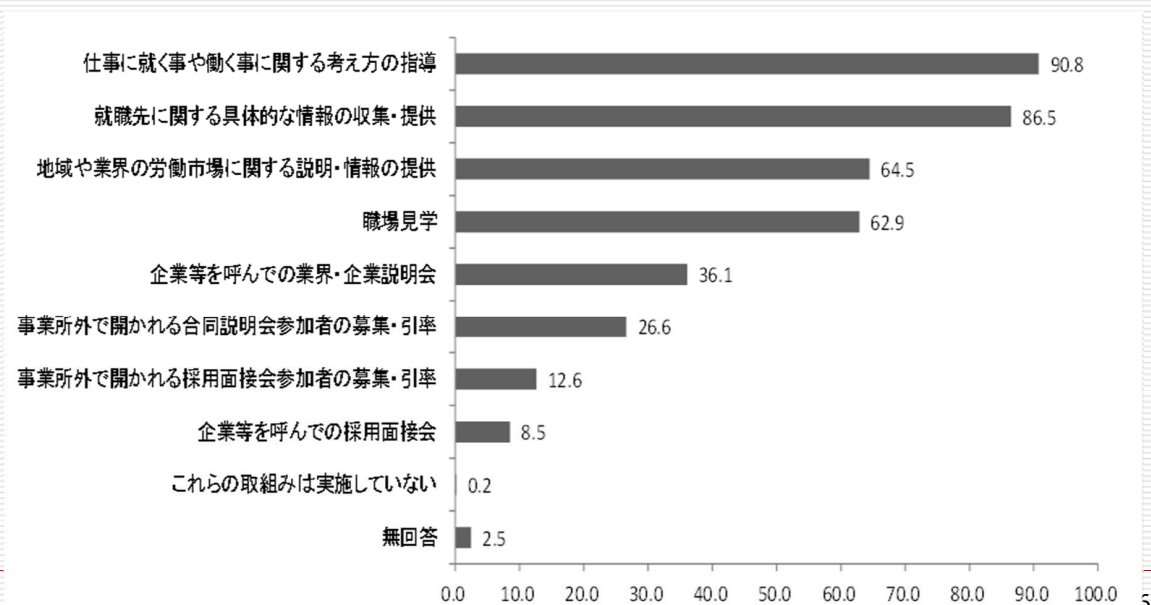
●受講者の就職支援の取り組みとしては、「仕事に就く事や働く事に関する考え方の指導」を実施しているところが約9割と最も多く、同程度の回答割合で「就職先に関する具体的な情報の収集・提供」が続く(図表3)。

●求職者支援訓練で訓練中に行うこととされているキャリア・コンサルティングについては、73.8%の施設が、受講者1人当たり「3回」というケースが最も多いと回答している。また、訓練期間中に履歴書・エントリーシートの作成に関して行う指導の回数は、受講者1人当たり「3～5回」という施設が55.3%で最も多く、一方向接指導については、受講者1人当たり「1～2回」が44.9%、「3～5回」が46.6%となっている。

5

### 3.就職支援の取り組み

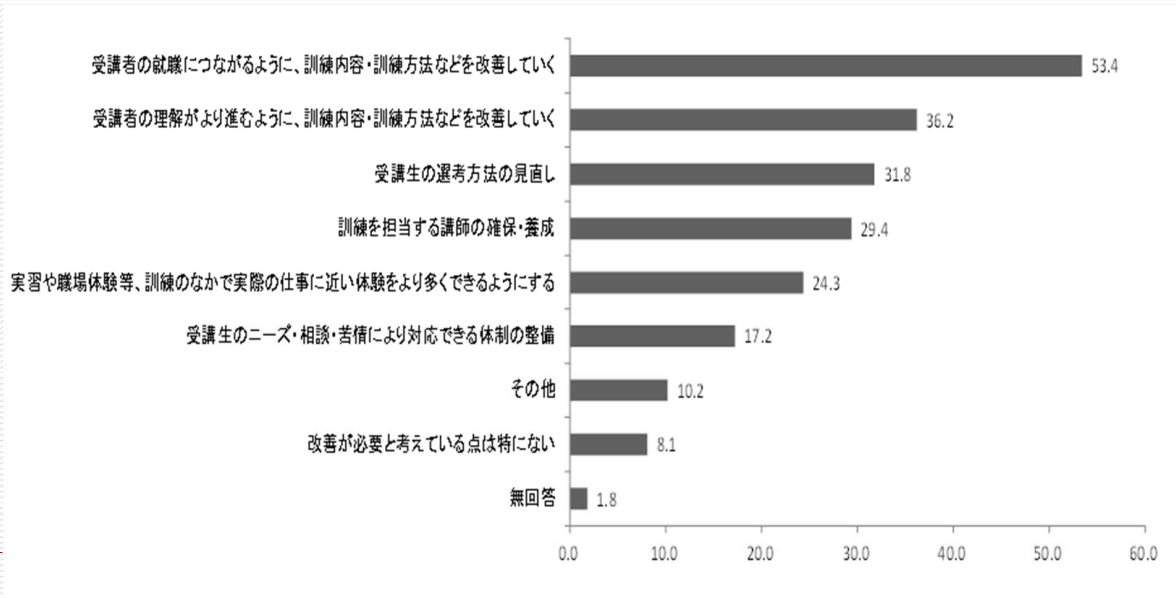
図表3 実施している就職支援の取り組み



5

## 4. 今後の訓練運営に向けての課題

図表4 訓練に関わる課題



### 4. 今後の事業運営に向けての課題

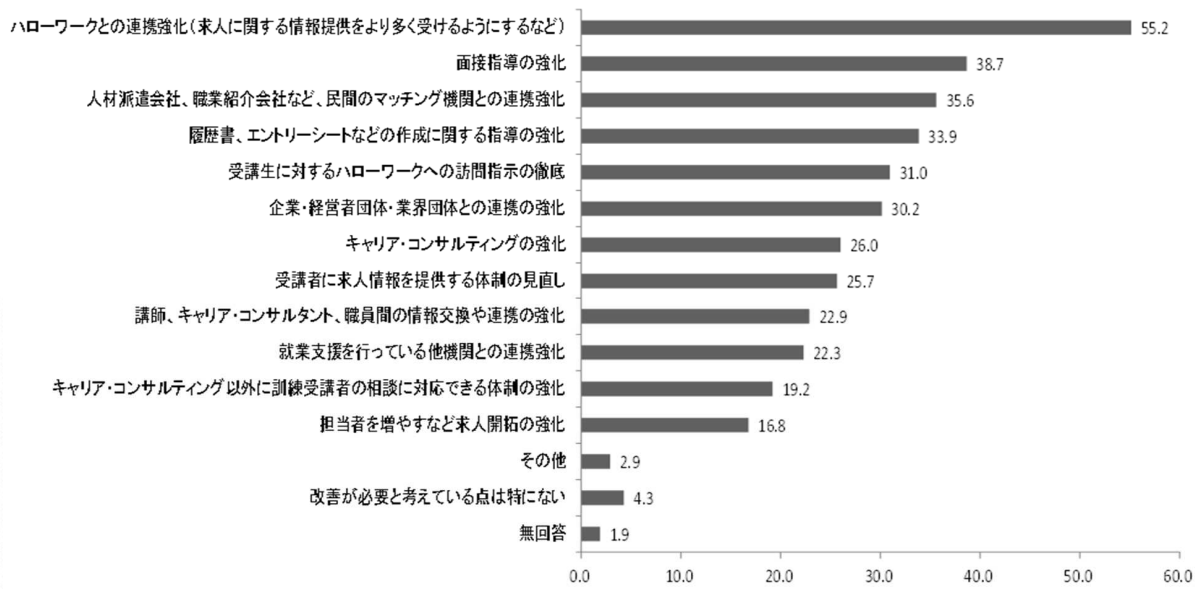
図表5 就職実績別に見た課題の認識

※低就職率の施設は、講師の確保や、訓練内容・訓練方法を、より課題視。

訓練の改善にあたっての課題(複数回答、%)

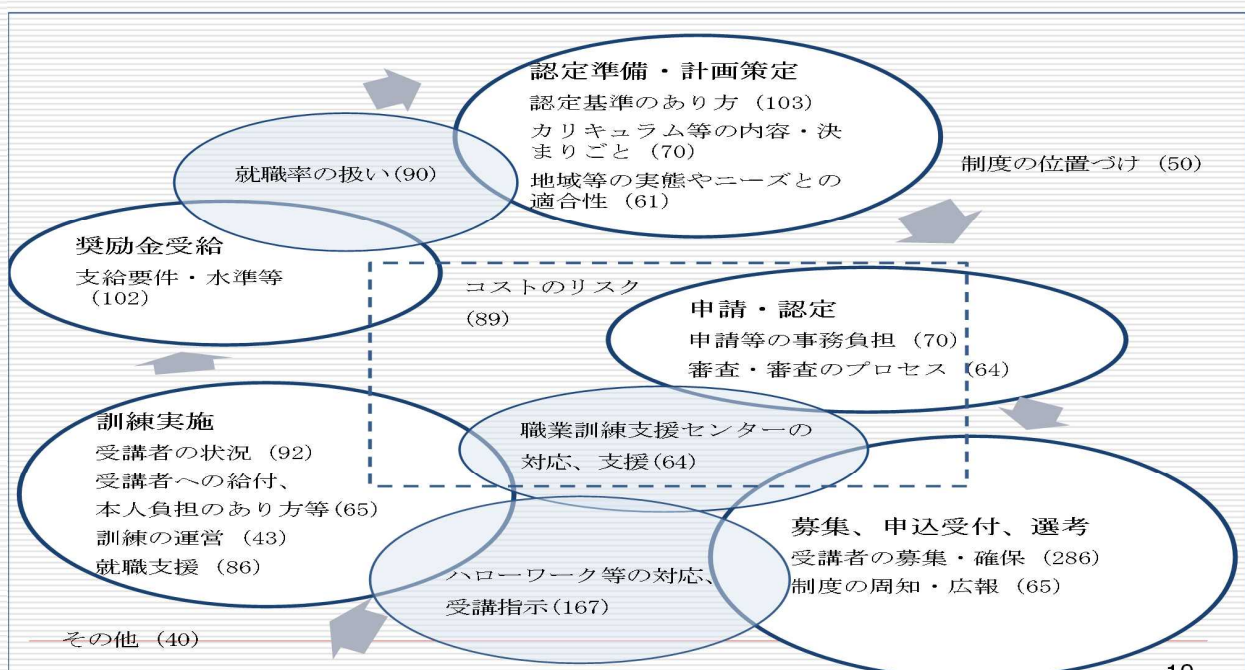
	基礎		実践: 営業・販売・事務		実践: 介護	
	就職率高	就職率低	就職率高	就職率低	就職率高	就職率低
受講生の選考方法の見直し	22.2	30.1	35.5	30.6	30.7	41.1
受講者の理解がより進むように、訓練内容・訓練方法などを改善していく	37.3	38.2	33.3	44.0	37.2	36.3
受講者の就職につながるように、訓練内容・訓練方法などを改善していく	54.6	51.8	48.6	60.4	54.7	56.5
訓練を担当する講師の確保・養成	25.7	41.2	21.0	21.6	35.0	33.1
受講生のニーズ・相談・苦情により対応できる体制の整備	17.6	18.4	15.2	20.1	19.0	20.2
実習や職場体験等、訓練のなかで実際の仕事に近い体験をより多くできるようにする	16.9	23.5	26.8	20.1	32.1	33.9

図表6 就職支援に関わる課題



## 5. 求職者支援制度に関する意見・要望

( ) 内はコメント数(複数カウント)



## アンケート調査について

---

○2012年11月から12月にかけて実施。対象は、2012年4月から9月の間に終了した全訓練コースの実施施設(=事業所)であり、2562施設中1376施設から回答を得た(有効回収率:53.7%)。

○調査・分析結果の詳細については、労働政策研究報告書163『求職者支援制度に関する調査研究—訓練実施機関についての調査・分析—』を参照。